

医療法人名南会 第61回定時総会特集号



第587号(部内資料)
(毎月1回、1日発行)

発行
医療法人 名南会
名古屋市南区豊田
五丁目15番18号

発行責任者
小岩 朋宏
☎052-692-2388

第61回定時社員総会のご案内

法人定款第20条の規定による「医療法人名南会 第61回定時社員総会」を開催いたしますので
ご通知申し上げます。

2023年4月 医療法人名南会
理事長 三宅 隆史

●日時：2023年5月27日(土)

■開場・受付開始 午後2時30分

■総会議事 午後3時～4時30分

(新型コロナウイルス感染症対策により総会議事を短時間で
行う場合があります。)

■場所 金山・労働会館
東館2Fホール

名古屋市熱田区沢下町9-7
地下鉄・JR・名鉄線金山総合駅下車、東口から徒歩10分



● 2022年度の各事業所の活動のふりかえり ●

名南病院

2022年度の名南病院は「最も困難な人たちを、まず診る・援助する・チームで何とかする病院」をビジョンに掲げ、事業活動を進めてきました。

1 入院医療：名南病院の新型コロナ病床使用率は86%で、愛知県平均(44.7%)を大きく上回る入院受入を行いました。友の会、かかりつけ患者さん、名古屋市感染症対策室、保健センターからの依頼に応え、2022年度は168名(昨年度は65名)のコロナ陽性患者の入院受入、10月1日以降は名古屋市の重点医療機関として緊急フェーズ病床で最大10床まで増床しました。第7波、第8波ともに病棟でのクラスターが発生、1ヶ月以上は受入指定病床を大幅に超える陽性患者が入院され、病棟機能を制限し運用を行いました。コロナ受入病棟である4階病棟だけでなく、全病棟で感染対策を徹底、コロナ以外の患者受入を積極的に行い、新入院数は136件/月と昨年度を上回る件数を確保できました。病棟看護業務の負担軽減を目的に、3階病棟で2交代3人夜勤を開始しました。2022年度に名古屋市医師会の認知症対応モデル病院養成事業に参加し、認知症対応モデル病院に認定されました。

2023年度は指導病院としての対応、地域包括ケア病床でのレクリエーション療法を計画しています。入院患者さんの高齢化が急速に進むもとで、地域包括ケア・退院支援・在宅復帰支援の体制を強化し、入院時に退院目標を設定するための多職種カンファレンスを継続して行います。

2 外来医療：発熱外来を月曜日から土曜日まで設置し、2022年度は予約枠を倍増しました。直接来院される方も含めると、ピーク時は1日40名前後の方が連日受診されました。行政からの依頼も昨年度から引き続き多く、51名の方が外来受診から当院での入院加療となっています。緊急往診7件、PCR検査約6,000件、抗原定性検査約10,000件を実施、限られた施設と体制の中で、職員一丸となって最大限の努力を行いました。コロナワクチンも昨年度に引き続き、午後の時間帯の特診で予防接種を行いました。

主治医が慢性疾患管理、運動や食事などの生活習慣、服薬状況、健診・予防接種、介護保険の管理・相談まで、病气から生活全般を支える「かかりつけ医診療」を継続して行っています。名南病院への通院に関わる困難をサポートするとりくみとして、職員による送迎も3年目を迎え、通院から在宅・往診へシフトされる方への対応も行っています。地域のニーズもあり、訪問リハビリを大幅に強化しました。2022年度末で管理数は56名(昨年比+31名)と着実に増加し、そこから入院につながるケースも増えています。

2023年度も発熱外来を継続し、感染拡大を防ぎながら、地域のかかりつけ機能の更なる強化を進めていきます。2023年度は金曜日の夜間通常診療を廃止するため、救急外来などでお断り事例を出さないように、体制の強化を計画しています。

3 医師の確保と養成：「法人医師確保プロジェクト」は常勤医師採用を目標に面談を強化してきました。2022年度は2名の常勤医師の採用

がありました。愛知民医連の初期研修プログラムにもとづいて4名の研修医が糖尿病研修を行いました。コロナ禍もあり、中止や受入できないこともありましたが、大学の学外実習、愛知民医連奨学生等、医学生実習を継続して受け入れました。

4 地域組織活動：地域訪問行動はコロナ禍もあり、電話、訪問も含めて計6回実施しました。資金募集運動は、待合室椅子への表示、外来ディスプレイの活用を行いました。コロナ禍で外来行動が制限されたこともあり、4,000万円の年間目標を達成することができませんでした。「街かどなんでも相談会」(いのちの相談所)を3ヶ月に1度のペースで継続開催し、医師、弁護士、看護師、MSWが参加、地域の方の相談を受けています。

5 地域連携：近隣病院、開業医、施設等に訪問・懇談を実施し、2022年度末で5つの在宅専門診療所との強化型在宅医療協力医療機関に関する協定を締結しています。2022年度の無料低額診療事業相談件数は321件(昨年比+35件)、新規承認44件(前年比+8件)となり、コロナ禍での厳しい社会状況が反映され、病院ホームページからの比較的若い世代の方の問い合わせ、相談数が増加しています。引き続き地域に目を向けた活動を行います。

6 経営活動：2022年度の年間利益目標(9,630万円)の達成に向けて、全職員への経営情報の発信を行い、コロナ関連の補助金もあり、2022年度は約1億7,000万円の経常利益の見込みで、予算を大幅に超過することができました。

「めいなん新聞」お届けの社員・友の会の皆さんへ

「めいなん」郵送先の宛名について変更希望の方はお知らせください

社員・友の会の皆さんに、毎月1回「めいなん」新聞を一世帯一部でお届けしていますが、今まで送り先の宛名については、申込者ご本人または同居のご家族で社員・友の会の方が複数いらっしゃる場合は便宜的に世帯主と思われる方の氏名でお送りしています。

ジェンダー平等が重要視される昨今、複数の送り先または代表送り先の宛名変更をご希望の方は、お手数ですが以下の連絡先まで連絡をお願いします。

(連絡先) 医療法人名南会 本部事務局 Tel: 052-692-2388

めいなん新聞は通常一世帯一部でお届けさせていただいていますが、今回は「総会特集号」のため社員、名南会協同基金協力者のおひとりおひとり一部ずつお届けさせていただきます。

名南ふれあい病院 介護医療院名南ふれあい病院 名南介護老人保健施設 かたらいの里 ヘルパーステーションきずな

(2022年度活動のまとめ)

2022年度においても新型コロナウイルス感染症が事業に及ぼす大きな影響を感じる年度となりました。昨年度の第6波に続き、夏に起こった第7波においても新型コロナウイルス感染症のクラスターが回復期リハ棟、介護医療院、老人保健施設の各事業所で発生しました。どれだけ感染に注意してもこのウイルスの強い感染力には多くの入院・入所者様、そして職員も感染してしまいました。感染者が増えていく中で入院・入所者の転院・入院、受入の制限によりそれぞれのベッド稼働が大きく落ち込み、入院・施設収益に大きく影響が及びました。2021年度の名南ふれあい病院の赤字決算に続き、2022年度は名南ふれあい病院、介護医療院、ヘルパーステーションが赤字決算になる見込みです。

新型コロナウイルス感染症に関して一番対応が必要であった活動は入院・入所者を感染から守ることです。感染者が多くない時期から感染が拡がらないための対策を講じてきました。発熱外来は第7波までは地域の方の受診は少なかったのですが、第8波以降は受診者が増え、それに伴い陽性者の発生も増えました。コロナのワク

チン接種も1日の摂取可能数は少ないながらもかかりつけ医の役割として患者様が接種できるように努めました。

(名南ふれあい病院)

昨年度、名南ふれあい病院に法人で初めて誕生した摂食嚥下障害看護認定看護師は活動の幅をひろげようとしてきました。地域の健康懇談会で嚥下についての講演をおこないました。知っているようでよく知らない嚥下については地域住民への啓蒙活動がもっと必要だと感じ、これからもさらに嚥下に関する活動で地域に貢献していきます。

(名南介護老人保健施設かたらいの里)

かたらいの里は在宅復帰・在宅療養支援機能の超強化型老健としての役割を果たしてきています。在宅生活を継続できるようにするためにショートステイや中期間の入所利用をしていただき、リハビリテーションを行うことで身体機能の維持・向上を図り社会の一員として地域で生活を続けられるようにすること、また入所期間中は介護者の負担を軽減することに取り組んでいます。

(介護医療院)

介護医療院は重介護者の療養と生活の場としての役割を続けています。長期間ここで生活していく中で人生の最期を迎える方も増えてきています。その人らしい最期をここで迎えられる

ようターミナルケアに取り組んできました。

訪問・通所サービスにおいては利用者が在宅生活を続けられるようなサービス提供を行ってきました。リハビリテーションと介護の力で利用者が地域の中で安心して暮らすことができるようにします。

(地域組織活動)

コロナ禍の中で地域における活動はなかなか進みませんでした。健康教室は大半が感染状況の悪化のため開催を断念せざるを得なく、参加を心待ちにしていた方達の期待に応えることができませんでした。2021年度から始まった大磯学区での健康教室は参加者が増えてきていたこともあり、共同組織の拡大につながる活動なので今年度はさらに活発な内容にしていきます。

ふれあい病院の受診のための送迎を2021年度より開始していましたが利用者は依然少ないままでした。しかし送迎を利用されている方からは大変助かっているとの声も聞かれます。今後はふれあい病院だけでなく法人として送迎のあり方について検討していきます。

地域組織活動の指標とも言える協同基金は目標額に到達できませんでした。コロナ禍で呼びかけが十分にできず目標額に対して厳しい結果となりました。地域に対してもっと貢献することで友の会員拡大、協同基金の協力が得られるようにしていきます。

名南診療所 デイサービス庵 訪問看護ステーションきずな

名南診療所は名南会の2病院(名南病院・ふれあい病院)、老健かたらいの里、ヘルパーステーションと連携し、予防医療や急性期治療から在宅介護サービスまで、地域の方の生活の多くの場面に関わりながら医療・介護活動を行っています。皆様の【住み慣れたおうちで暮らし続けたい】という思いに寄り添うために、敷地内には訪問看護ステーションきずな、居宅介護支援事業所、通所リハビリ、デイサービス庵もあり、在宅療養のサポートに力を入れています。

また名南診療所は「在宅療養支援診療所」として365日24時間対応の体制で、体が不自由で通院が困難な方、人工呼吸器や点滴・経管栄養の管理、褥瘡ケア、がん末期を含むターミナル管理から看取りまで、さまざまな医療管理を必要とする方々の在宅療養を法人内外の医療機関や訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所などの関係機関と協力してサポートしています。

名南診療所グループ全体では、今まであまり関わりの持っていない基幹病院や地域の在宅クリニック、いきいき支援センターへの訪問をし、問い合わせ件数も増加しました。

(名南診療所)

2022年度は【「何かあったらここに相談しよう!」地域にそう思ってもらえる、頼れる身近な場所に・・・】をキーワードに、各事業所でそれ

ぞれ目標を掲げて活動してきました。県や市からの通達を連日確認しながら、訪問診療・外来でのワクチン接種、発熱外来を継続してきました。訪問診療患者さんでは入院が必要な状態となってもコロナ病床が満床で入院できず、連日点滴に訪問する事例もありました。「依頼は断らない。対応は迅速に」を基本に今後も新規受入を継続していきます。

①外来は地域の高齢化とともに訪問診療への切り替えや施設入所、死亡等により患者数が減少傾向でした。2021度の平均1日患者数15.3名に対し、2022年度は13.2名となりました。外来件数減少に伴い、健診件数も減少傾向ですが、担当者を中心とし積極的に声かけをおこない、年間目標で掲げていた大腸がん検診200件を達成することができました。特定健診目標280件は、272件と目標まであとわずかでした。

②居宅介護支援事業所も地域の皆様の介護相談にも柔軟に対応できるよう努め、いきいき支援センターからの相談もコンスタントにあり、112件以上の件数を維持することが出来ました。要支援の方から要介護の方までどんな小さな介護相談にもご対応できるよう2023年も努めていきます。

③通所リハビリ、デイサービス庵では、コロナ禍でなかなか外出イベントなどが開催できていませんでしたが、3月末の花見外出をおこない、利用者様と共に春を感じることができました。

・通所リハビリは、2023年度も皆様に楽しく、生き生きと過ごしていただけるよう、感染予防と併せて今行えるケア・サービス提供をしていきます。

・デイサービス庵では、ガイドラインに基づいた感染対策を行い、クラスター発生する事無く通常営業をすることができました。コロナ禍ではイベントや行事の中止・縮小を余儀なくされましたが、事業所周辺を少人数での散歩を実施しています。2023年度も閉じこもり防止・日常生活の活性化を目標に、障害のある高齢者にとって楽しい・居心地の良いデイサービス創りに努めていきます。

(訪問看護ステーションきずな)

訪問看護ステーションきずなは、夏頃の第7波、12月～1月頃の第8波には利用者様とスタッフがコロナ感染や濃厚接触者となり、出勤停止、利用者様の訪問の一時休止や新規受け入れの抑制など影響がありました。そんな中でも、急遽点滴が必要となった方やコロナ感染により急遽介入が必要となった方への介入も可能な限り対応してきました。そして、2022年11月より名南病院の夜間緊急受診の受け入れをすすめ、名南診療所との医療連携が取れるステーションとしての認知度が浸透してきています。

(地域組織活動)

地域組織活動は、コロナ感染拡大により思うように活動できませんでしたが、訪問行動は友の会支部役員の方々と8回実施しました。診療所の休診日を利用して、毎月第1火曜日は「なんでも相談室」を開催することとしましたが、実施できたのは7月・11月の2回のみ、まだ定例化することができていません。

2023年4月からは、健康づくりのミニ学習会を開催していきます。協同基金はコロナ禍により班会での呼びかけは出来ませんでしたが、各事業所・部署での直接の声かけやチラシ配布を行い、多くの方にご協力をいただき、年間の目標協力金額の1000万円を達成することができました。

2023年度は、2022年度より進めているホームページのリニューアルを完成させることと、火曜休診日の活用をかたちにしていきます。名南診療所はどんな些細な事でも何か困った事が

あった際に、「そうだ！とりあえず診療所に相談してみよう！」とお願いいただける診療所を目指し2023年度も法人内・法人外の様々な事業所・友の会の皆様と連携・協力しながら、地域の方々

の健康と生活を支えていきます。

中川診療所 有料老人ホームひなた ヘルパーステーションひなた

(中川診療所)

外来は、患者数が増えた年でした。新型コロナウイルスの影響で患者数が減少していましたが、今年度は2021年度より+155件、2020年度より+511件と増加しました(2月末時点)。発熱外来の影響もあると思いますが、定期診察・健康診断をされる方が戻ってきたのではないかと感じています。今年度はPCR検査、抗原検査、インフルエンザ同時検出検査を合わせて昨年比1.5倍の492件行いました。

夏に発生した第7波では毎日たくさんの発熱外来の問い合わせがありましたが、診療所の許容範囲を超えていたため、お受け出来なかった方もあり、ご迷惑をお掛けしました。

新型コロナワクチンについては、開始された時よりも希望人数が減少したため昨年度よりも505件少ない接種数となりました。しかし名南会に受診歴がない方で昨年度接種して頂いた方

が4、5回目の接種で再度中川診療所をご利用頂いた方もいらっしゃいました。

通所リハビリは、4～7月までは1日利用者数17.1名と予算達成していましたが、新型コロナウイルスの第7波が発生したことにより8月は15.1名まで減少、9～12月までに16.9名と増やしてきましたが、1月に再度発生したため、15.7名、2月に16.5名という結果になりました。通所リハビリは『1か月に1件の新規契約』を目標としていますが、12月から新規契約を取れなかった事も人数が増えなかった要因になりました。収益に関しては第一四半期までは予算を超過していましたが、新型コロナウイルスの影響で予算を下回る月があり、4～2月で▲1,610千円となりました。

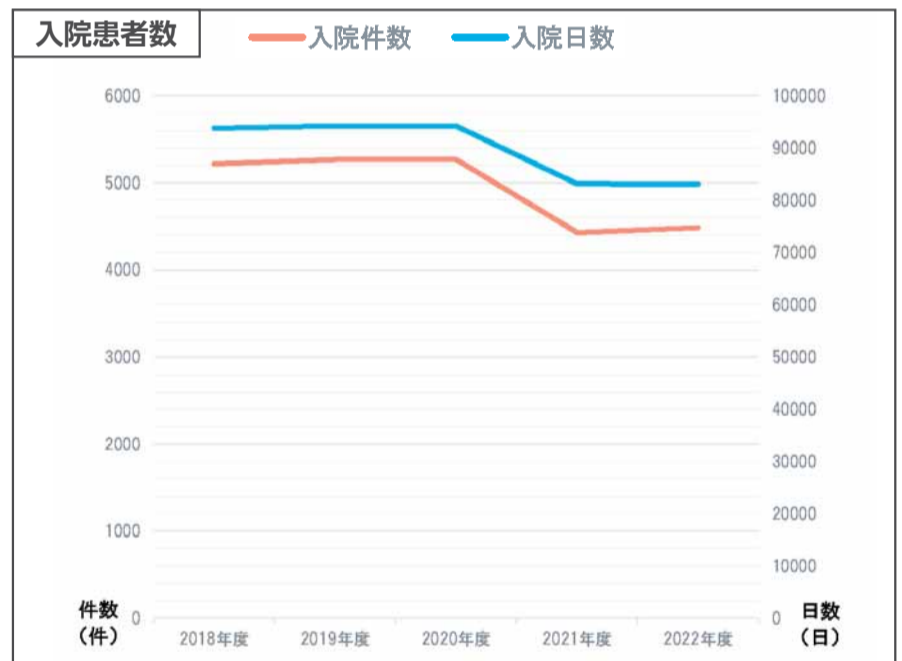
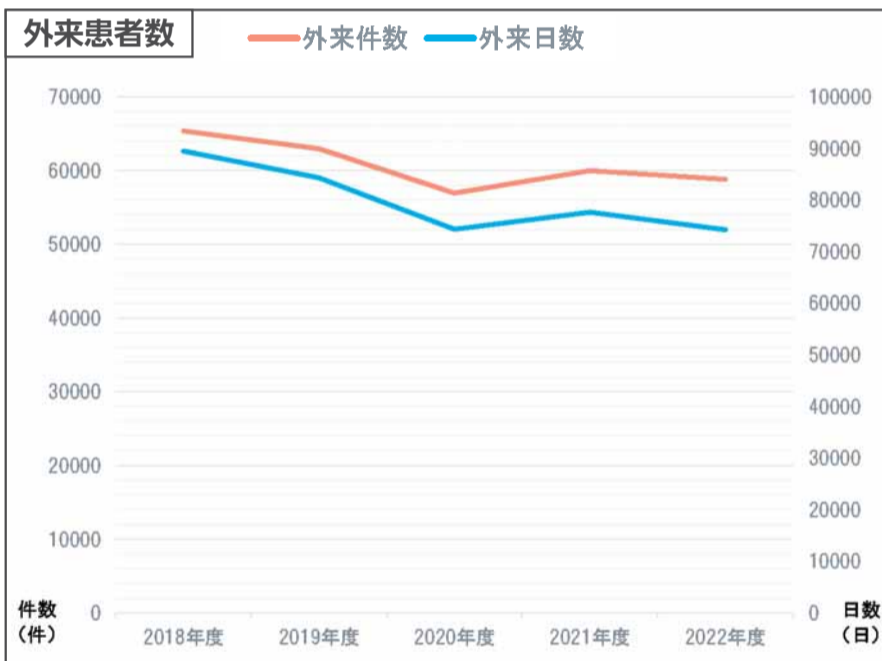
居宅介護支援事業所は、今まで常勤1名・非常勤2名体制だったのを、9月から常勤2名・非常勤1名体制としました。全体の利用者数は昨年よりも増やす事は出来ませんでした。要介護の方が増え、ほとんどの月で予算達成となりました。利用者数は前年より少ないですが、収益としては前年を上回る事ができました。

(ヘルパーステーションひなた)

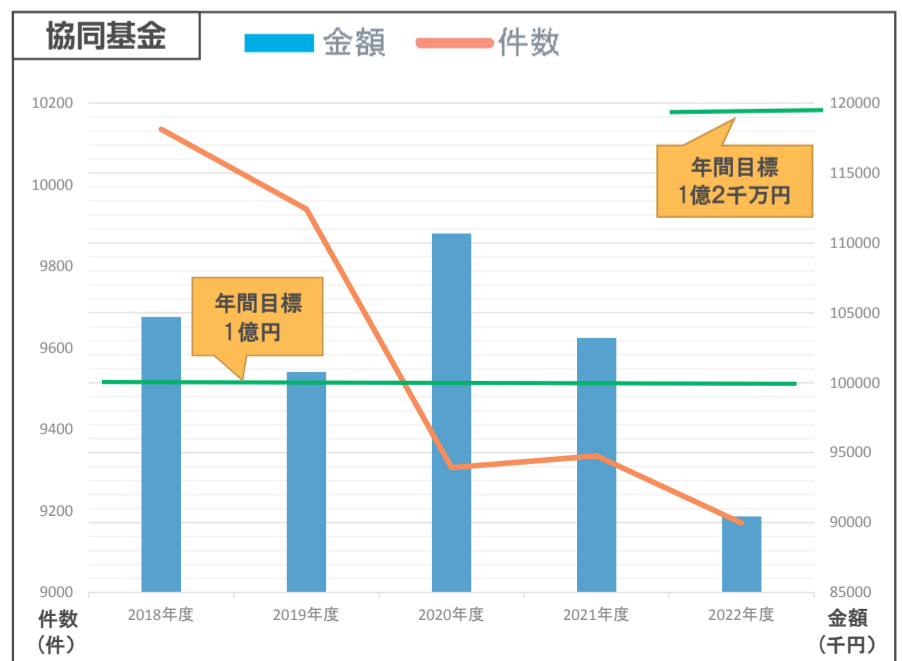
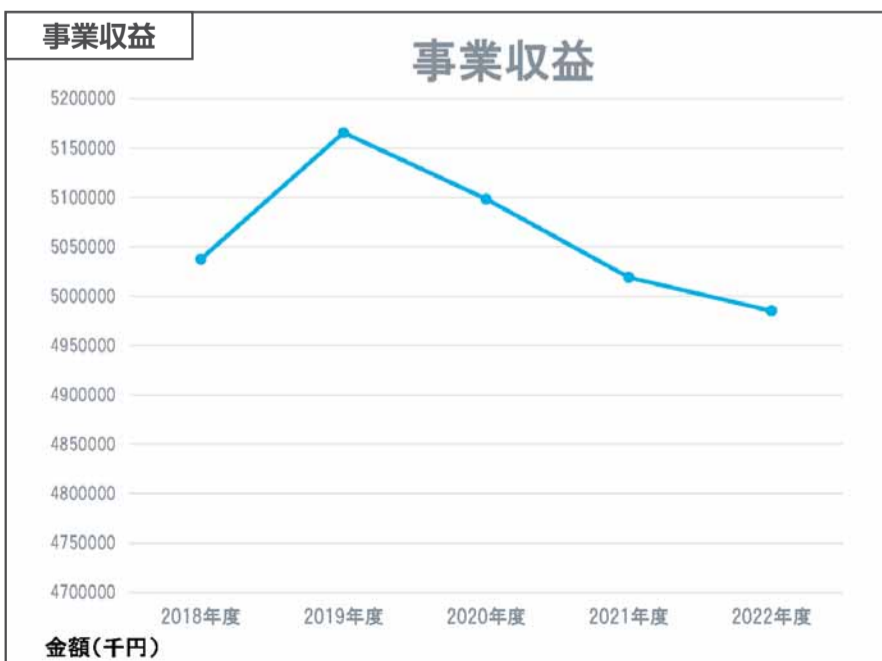
ヘルパーステーションひなたは、昨年よりも利用者数、収益とも増やす事が出来ましたが、予算を高く設定していたため、ほとんどの月で予算を達成する事ができませんでした。また、職員の募集を行いました。職員体制確保ができず、利用依頼があっても十分に应付することができませんでした。1月からは常勤1名増、2023年4月からは非常勤職員の体制増が出来たため、2023年度は積極的に依頼を獲得していきます。

(住宅型有料老人ホームひなた)

有料老人ホームひなたは、満室から始まりほとんどの月が満室となっていましたが、介護が必要となったり、新型コロナウイルス感染症でADLが落ちたなどの理由で退去された方がいました。昨年度は一日入居者数16.8名でしたが、今年度は17.2名と予算としている17.5名に近づく事ができました。また新たな事業所とも繋がり、ひなたでは難しかった日帰り旅行に行く事ができました。新型コロナウイルスの影響で外出が出来ない時もありましたが、落ち着いている時には外へ出かける事ができました。



法人3事業所及の入院の合計(名南病院・名南ふれあい病院・介護医療院名南ふれあい病院)



医療法人名南会 2023年度方針

2022年度も、新型コロナウイルスの感染拡大が繰り返し続く困難な一年となりました。「第8波」では、全国で連日400～500人が亡くなるという大変痛ましい状況がうまれました。新たに重点医療機関に指定された名南病院では、これまでに230例を超える入院を受け入れてきました。多くの病床が逼迫する中で、高齢者施設や自宅で療養中に状態が悪化し、名古屋市の新型コロナウイルス感染症対策室からの入院要請や救急搬送で入院となる事例も少なくありません。コロナ禍で社会的・経済的な困難さが増大するも、各地域で定期的に開催している「なんでも相談会」は、弁護士などの参加も得ながら幅広い相談に応じてきました。「フードパントリー」は、様々な企業・団体などの協力も得て継続的にとりくまれ、民医連新聞にも掲載されました。中川区での「買い物お助け隊」(買い物支援)は、毎月最終金曜日に町内会との共催として行われ大変好評です。すべての事業所で感染対策を徹底しながら医療・介護活動を進めるとともに、友の会や地域の様々な団体とも共同して、安心して住み続けられるまちづくりを進めていきます。

政府は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけについて、5月以降、季節性インフルエンザと同等の5類へ変更することを決定しました。外来診療は幅広い医療機関で対応する体制へ移行し、入院については措置や勧告は適用されなくなり、原則公費負担で無料となっている医療費は一部自己負担とすることが示されており、誰も

が安心して医療・介護にアクセスが可能な環境が壊されることが懸念されます。2024年の介護保険制度の見直しに向けて、厚生労働省は介護サービスの利用料の2～3割負担の対象拡大や、要介護1・2の保険給付外しなど提示しました。しかし、多くの国民と関係団体から批判の声が広がり、要介護1・2の保険給付外しは2027年度改定に先送りすることが決定されました。

岸田政権は、医療・社会保障の削減・改悪を進める一方で、昨年12月に閣議決定した「安保3文書」に、歴代政権が違憲としてきた「反撃能力」(敵基地攻撃能力)の保有を明記するとともに、防衛費を2027年度には国内総生産(GDP)比2%(現行の約2倍)に達するように予算措置を講じることを指示しました。4月には統一地方選挙が予定されています。医療・介護・福祉をはじめとする身近な要求を実現させるとともに、国政の課題とも結びつけながら世論と運動を広げていくことが重要です。

2023年度は第9次長期計画の初年度です。困難な情勢だからこそあらゆる活動に「民医連綱領」の立場をつらぬき、経営と管理の改善を進めていくことが重要です。医師をはじめとする職員の確保と育成を強化し、第9次長期計画の具体化と実践を進め、今後の名南会の展望をつくり出していきます。



2023年度の重点課題方針

① 事業所での感染対策を徹底し、コロナ禍を乗り越える医療・介護活動を発展させていきます

感染対策を徹底しながら、新型コロナウイルス感染症に対する各事業所での外来診療やワクチン接種、名南病院での新型コロナウイルス感染症重点医療機関としての対応など、地域での受療権を守る役割を果たしていきます。コロナ禍を乗り越える医療・介護活動について、実践から教訓を学び集団で議論を深めながら、質の向上を追求し発展させていきます。法人内外との連携を抜本的に強化し、無差別・平等で切れ目のない地域包括ケアを目指していきます。

③ 経営と管理の改善を進め、第9次長期計画にもとづく毎月の予算達成を重視し、今後の名南会の展望をつくり出していきます

名南会の事業・経営は地域住民が安心して暮らし続けるために存在しています。経営と管理の改善を一体のものとして「全職員での経営」をつらぬき、第9次長期計画にもとづく毎月の予算達成を重視するとともに、名南病院のリニューアルに向けて財務基盤の強化を進めていきます。第9次長期計画の具体化と、2024年度の診療報酬・介護報酬改定に向けてリポジショニングの議論を進めていきます。

⑤ 医師をはじめとした職員確保を強め、民医連綱領と民医連総会方針を確信に職員育成と職場づくりを進めていきます

医師、看護師をはじめとした職員の確保と育成を一層強化していきます。職員のいのちと健康をまもることを重視し、働き方の改善を進めていきます。民医連の各種方針学習と「職員育成指針2021年度版」の実践を進めていきます。ジェンダー平等や地球環境をまもる課題について学習をもとに実践を進めていきます。第9次長期計画以降の名南会を展望し、次代の役員・管理者の育成を重視して進めていきます。

② 大軍拡をストップさせ、憲法を守りいかし、人権と公正の視点でのちとケアが大切にされる社会の実現をめざします

大軍拡をストップさせるために「安保3文書」など激変する情勢と憲法の学習を強め、「平和、いのち、くらしを壊す大軍拡、大増税に反対する請願署名」と「憲法改悪を許さない全国署名」を広げていきます。人権としての社会保障実現に向けて、国民健康保険の改善、格差と貧困・困窮への支援活動、無料低額診療・利用事業を広げていきます。国に対して感染症対策の強化を求めていきます。統一地方選挙での要求の前進に向けてとりくみを強めていきます。

④ 名南会と健康友の会の共同を大きく広げ、安心して住み続けられるまちづくりを進めていきます

貧困と社会的孤立が広がるなかで、コロナ禍を乗り越える地域でのつながりと結びつきが求められています。名南会と健康友の会との共同のとりくみを学習や行動で高めあいながら、相談会・フードパントリー・地域での居場所づくり、フレイル予防や健康づくりを積極的・創造的に進めていきます。友の会会員拡大、協同基金募集、健診運動を目標を持って強めていきます。中川診療所開所40周年記念事業の開催について検討します。

2022年度 地域組織活動

コロナ禍だからこそ名南会と健康友の会の共同を大きく広げ、無差別・平等の地域包括ケアと安心して住み続けられるまちづくりを進めていきます。

【はじめに】 2020年2月より拡大した新型コロナウイルス感染症のもとで、この3年間活動自粛の中、知恵を出し合い、コロナ禍でこそ地域で求められる、できる活動をすすめてきました。地域では、見えない貧困と外出・活動自粛に伴う高齢者の孤立化と身体能力の低下が進行しています。コロナ禍において、仲間の絆と連帯・共同という民医連の共同組織の活動が一層必要とされていることが実感できた1年でした。サロン活動、相談活動や助け合い事業などへの期待が高まる中、今期は①全事業所での「なんでも相談所」活動と子ども食堂(フードパントリー)、②友の会地域支部を主体に、ウォーキング・ポッチャ・健康教室など小規模での活動実施、が特徴的でした。

① 「地域の健康づくり」の運動を事業所と共同組織(社員・友の会)が一体となってすすめてきました

特定健診(友の会健診)、大腸がん検診、乳がん検診を重点検診とし、各事業所で年間目標を決め、地域での健康づくりのとりくみをすすめました。

特定健診(友の会健診)、大腸がん検診・乳がん検診を重点に、「名南会健康推進委員会」を中心に友の会各地域支部との共同のとりくみとして、地域で健康づくりを広げる活動にとりくみました。しかし、コロナ禍における受診控えや日曜健診など集団健診の中止などにより、検診実施数(2月まで)は、特定健診、大腸がん検診は前年度を下回り、乳がん検診はわずかに上回っています。2年前より始めたバースデー健診の定着拡大と、前年度受診者への確実な働きかけを行いながら、検診を広げる努力を行いました。

② 各事業所・地域ごとに目標をもった資金募集運動では、引き続き多くの社員・友の会員の方に協力をいただき、9000万円を超える協同基金が寄せられました。が年間目標に到達できませんでした。

“名南会協同基金は、差額ベッドのないよりよい病院、施設を支える大切な力”と職員、共同組織の共同でとりくみました。しかし、物価高騰による生活苦が広がる中、コロナ禍による外来や病棟での訴え・班会・地域訪問行動などの中止もあり、資金募集運動は大変困難を伴いました。各事業所で「設備や医療機器を充実させ、よりよい病院・診療所づくりを協同基金で支えてください」との訴えや、すでに資金協力をいただいている方・積立通帳(毎月定期)協力者で中断されている方などへの働きかけを重点的に行うなどの努力を行いました。しかし、昨年まで4年連続で年間1億円超の資金協力がありましたが、今年度は1億円を下回り、目標を達成できませんでした。

③ 友の会員の要求を出発点に、友の会らしい仲間づくり・健康づくりの活動を広げてきました。地域に交流の場・居場所づくりをすすめ、民医連事業所と友の会が共同して、無差別平等の地域包括ケアと安心して住み続けられるまちづくりを進めてきました。

コーヒーサロン、お食事サロン、ゆめっこ広場(子育てサロ

ン)、認知症カフェ、いずれも引き続き活動を制限せざるをえない状況でした。中川診療所のサロン(なかしんさん)は再開しました。

地域の中の拠点となるたまり場として、ポッチャサロンは地域の新たな交流と健康づくりの場となっていま



3月4日 友の会 第1回ポッチャ大会

す。そして、「みんなで交流したい」という要求をもとに、昨年延期となった「友の会第1回ポッチャ大会」が3月4日18チーム約60名の参加で開催できました。ふれあいグループによる豊田学区と大磯学区での健康教室は、専門性を活かし



ほんわか食堂
フードパントリー

て職員も参加し、地域から参加者も増えてきています。ふれあい病院地域支部では、まちなみチェックを目的にした訪問

行動、その後の土木事務所との懇談なども行ってきました。ほんわか食堂は六年目を迎え、コロナ禍の中、フードパントリーと活動の形を変え定期的

に開催、自治体・町内会などの連携と多くのボランティアの協力で、活動を継続させています。コロナ禍における活動として、全日本民医連提起の『いのちの相談所』活動を「なんでも相談所」として4事業所すべての地域で、顧問弁護士

の協力を、医師・看護師・ケースワーカーなど職員と友の会の共同で継続定期に行っていました。安心して暮らせるまちづくり、高齢者の見守り、生活支援活動が今まで以上に求められています。「お助けプロジェクト」は、ゴミ出し、掃除、通院送迎、公共住宅での住民清掃支援などの利用希望に応じてきました。中川地域では、買い物支援プロジェクトを町内会とも共同ですすめています。

④ 平和、くらしを守るとりくみ～みんなで学んでみんなで行動～。ロシアのウクライナ侵攻抗議、憲法改悪を許さないとりくみ、介護保険改悪反対・75歳以上高齢者負担増反対、社会保障制度の拡充などの運動に全力で取り組みました。

私たちは何よりも「いのちと平和」を大切に、「貧困化」など困難が広がる地域に寄り添い、誰もが医療を受ける権利(生存権・受療権)を守ります。職員と健康友の会が「名南会

「社保平和委員会」として、これらの運動に共同で取り組んでいます。11月7日には、職員・友の会共同で、久しぶりのスーパー前での署名行動を行いました。

平和行進、原水爆禁止世界大会、3・1ビキニデーに、一部オンラインでの参加となるも積極的に取り組んできました。ロシアによるウクライナ侵攻への抗議の意味も含め、毎月9と19日の両病院社保委員会を中心としたスタンディング行動を継続してきました。22年度は、愛知県知事選挙、参議員選挙が行われたため、学習会の開催や「選挙へ行こう」を呼びかけるアピールの発表などにも取り組みました。友の会緑支部では、昨年に続き2回目の平和の集いを開催(36名参加)しました。

署名は、「平和・いのち・くらしを壊す大軍拡、大増税に反対する署名」「憲法署名」「介護署名」「75歳以上医療費窓口負担2割化反対署名」などに取り組んできました。「めいなん新聞」への折り込みなどが中心で、コロナ禍で対話形式での取り組みが困難であったため、署名到達数としては目標から見ても十分ではありませんでした。

署名は、「平和・いのち・くらしを壊す大軍拡、大増税に反対する署名」「憲法署名」「介護署名」「75歳以上医療費窓口負担2割化反対署名」などに取り組んできました。「めいなん新聞」への折り込みなどが中心で、コロナ禍で対話形式での取り組みが困難であったため、署名到達数としては目標から見ても十分ではありませんでした。

5 名南会健康友の会は過去最高の9,412名の会員数となりました。友の会は、会員相互の交流を通じて生きがいや居場所づくりとしての「たまり場」を拠点に活動を広げました。仲間の絆・つながりづくりを重視した会員の要求にそった活動をすすめてきた成果です。

今年度友の会員拡大は、ウォーキング・ボッチャなどサロン活動の中で意識的に目標をもって取り組み444名の友の会員を増やすことができました。近年は自然減(死亡・転居等)が多い中、年間で94名の会員純増となり総会員数も過去最高となったことは近年にない成果です。



東員町コスモス畑ウォーキング

感染状況に注意しながら、呼続地域・緑区での「健康まつり」には友の会員以外からも多くの参加者がありました。

名南病院地域支部では、友の会役員と職員が協力し、「コロナ禍でお困り事はないです



呼続はみんぐ班結成

法人はみんぐのウォーキング・おしゃべり会として活動していた2つのグループがあらたに名南会友の会の班として活動を始めました。

名南診療所地域では、7年ぶりに地域懇談会を開催し20名の参加でした。



7月20日 天白ふれあい健康教室

か」と友の会員さんへの電話による対話行動を実施しました。また、友の会員以外も含めた全戸訪問を行い、事業所への受診につながるケースもありました。

ふれあい病院支部では、医療



名南診療所地域懇談会

緑支部に続けと天白支部も元気です。この間58名の会員も増え、4月には22名参加で第3回総会を開き、7月には天白ふれあい健康教室も開催しました。

6 10月～12月「秋の共同組織拡大強化月間」は、全体学習も行いながら、多彩な活動を展開、貴重な経験や成果がつけられました。

「月間」の開始にあたり、すべての事業所・地域で「月間スタート集会」を開催、数年ぶりにオンラインでの全体集会も行い、活動方針の意思統一を行いました。支部ごとの活動を重視する方針のもと、中川診療所地域では、支部でしっかりとした行動計画を立て、月間ニュースも7号まで発行し目標達成をめざし、全体の運動を牽引しました。

名南診療所地域は、独自の資金募集・健診おすすめチラシを作成し、仲間増やし・大腸がん検診・資金の目標達成の大きな力となりました。



秋の月間・中川診療所スタート集会

健康懇談会は、それぞれ医師が参加し、名南病院地域では東築地学区で34名の参加、緑支部(総会)では、52名の参加がありました。



11月29日 東築地健康懇談会